

議事要旨（速報版）

1 / 20

件 名： 新滝ヶ洞溜池の水質異常に係る対策協議会 第 19 回 対策協議会
日 時： 平成 29 年 2 月 7 日（火） 13：30～15：45
場 所： 可児市総合会館分室 2 階 大会議室
出 席 者： 出席者 23 名 佐藤委員長代理、堀内委員、大沼委員、今村委員、平山委員、高木（克）委員、山下委員、田口委員、梅田委員、加藤委員、足立委員、竹谷（雅）委員、田中委員、細田委員、高木（伸）委員、三好委員、綱川委員、秋田委員 欠席 4 名（杉崎委員長、仙石委員、竹谷（益）委員、水野委員） 事務局…伊藤、杉山、山口、山本、堀
配布資料： ・ 議事次第、席次表、委員名簿、第18回対策協議会の議事要旨 ・ 新滝ヶ洞溜池の水質異常に係る対策協議会 規約 ・ 資料－1 協議会資料 ・ 資料－2 協議会への意見・質問 ・ 資料－3 巻末資料
議事内容 1. 開会 2. 挨拶（佐藤委員長代理挨拶） 3. 議事 【佐藤委員長代理】 議事の（1）迂回水路試験運用状況について、事務局より説明をお願いします。 事務局から「（1）迂回水路試験運用状況について」説明 【事務局（山口）】 前回 18 回協議会においていただいた主な意見ということで 4 点まとめてございます。 一つ目として、迂回水路の試行の継続、二つ目として久々利川の魚類等の生物調査の結果、三つ目として水質に関する法的な取り扱い、四つ目としてプラントと迂回水路の水質比較についてということで御報告いたします。 まず最初に、水質に関する法的取り扱いについて報告いたします。 今回の水質に関する法的な基準は二つ。一つ目は環境基準、人の健康・保護に関する基準値で、年平均値で判断しております。二つ目として排水基準、事業所でないため法適用外ですが、水質管理の目安として採用してございます。この二つの基準値を参考にこれまでの協議会で水質管理目標を定め、水質監視を行ってきたところで、資料を平成 28 年 2 月に各委員に送付させていただいております。 次に、水質異常発生から、事故当時からこれまでの協議会の経緯（協議会、調査経緯、原因究明、その対策など）についてご説明します。 経緯としては、平成 15 年 4 月 26 日に魚類死が確認されて以後、今日に至るまで 18 回にわたる協議会にて今後の方針等について御討議いただき、これまでさまざまな対策工を実施しながら水質のモニタリングを行ってまいりました。平成 26 年 5 月 14 日以降は、迂回水路による試験運用が開始されております。今回の協議会では、その後の水質モニタリング結果を報告させていただきます。 【佐藤委員長代理】 ちょっと図が小さ過ぎませんか。大丈夫ですか。見えますか。何も見えませんね、何が書いてあるのか。 【足立委員】 資料のページを言ってください。

【事務局（堀）】	スクリーンの画面は、本資料についていません。この画面で水質異常発生時からこれまでどういうふうに協議会を開催してきたかということと、浸出水の水量や対策等の経緯を説明させていただきます。 経緯としては、魚が浮いたという事象から、第1回協議会から始まり、3回の協議会を経て原因が酸性水だと判明しました。このため、水質分析や水生生物調査などいろいろな調査を行い、覆土工の対策を実施しそのモニタリングをしてきました。 プラント稼働時は、プラントのところで水量をはかってきましたが、現在はプラントが停止しており、今回は迂回水路の試験運用結果を報告させていただきます。この経緯資料については、後ほど印刷して配布させていただきます。
【大沼委員】	放流を始めてからは浸出水の水量把握はできていないんですね。
【事務局（堀）】	浸出水の水量は、把握できていません。
【大沼委員】	はかる仕掛けがないんですか。
【事務局（堀）】	プラントのところで処理した水量を記載していますので、今はデータがありません。
【大沼委員】	直でそのまま出ているということなんだね。そうすると、浸出水量が減ったかどうかみたいな議論は、ここからはできないということですね。
【事務局（堀）】	現在、浸出水の水量データはありません。
【事務局（山口）】	資料1について、事務局からの説明
【佐藤委員長代理】	今の説明に質問や意見がありましたら、お願いします。
【梅田委員】	このデータはどこで公表されていますか。インターネットで調べてくださいという事ですか、資料が一つもないので、4.3とか6.幾つと言われても情報がないのでわかりません。 今年の9月10月を見ますとどーんと、今pHが下がったと言われましてけど、グラフから見ると地盤沈下したみたいの下へぐーっとなってるけど、これは今までになかったような傾向です。今までに4.3というのは観測されていますか。
【事務局（山口）】	過去の記録では多分出ていると思いますが。
【梅田委員】	過去にあるかもしれないが、今回そういう状態が起きております。覆土の関係がありますけれども、覆土が完全に管理されている状態とはこれを見ると言えないようです。何でこんな下がったか、検証を何らかされたか聞きたい。
【事務局（山口）】	pH4.3まで落ちている原因ですが、これはこのときにpH計の掃除をしているんです。一度下がったデータがなかなか戻らなかったということで事務局では確認しております。
【梅田委員】	そうしたら、ここに、横にそういうことを書いてもらわんと。そんな偶然よくこんなことがあるかというのを僕もちょっと不自然なような感じがしますので、そこらは親切にやってもらわんと。 例えば水質検査とか水質測定記録はホームページで出してみえますね。だけどそれには4.3って出ていない。それをどうして公表されているかという点も一つ問題。データはある程度みんなにわかるようにしてもらわんと、判断基準が何もないので、お願いしたい。 この図をもらって、これ見てどうって判断できない。うちらが見ると、ただの図になっちゃう。グラフをつくるにも、ある程度誰かがつくってそれを検査してここに出るわけですね。そこらはしっかりしてもらわんと。
【事務局（山口）】	今いただきました御意見ですが、データ等の特異なものに関しては今後注釈等をつけ加えるなり、工夫を考えていきたいと思います。 データですが、これは多治見のホームページで確認して下さい。
【梅田委員】	月一遍でたしか4.3というデータは公表されていなかった。 故障したなら故障したってある程度やってもらわんと、それを見たらみんなそれを信用してしまうということもあり得るので。
【事務局（山口）】	以後、こういうデータが出たときには注釈等つけさせていただこうと思います。
【山下委員】	そもそも室内分析値と自記観測値というのはどういう関係ですか。それで、も

- しこれが相関があるならば、あまりにも離れています。最初のあたり。特に浸出水の自記観測値と室内分析値、べらぼうにかけ離れているんだけど、これは何か、ちゃんと説明できるような理由があるんですか。
- 【佐藤委員長代理】 おさらいのため、事務局からもう少し丁寧に、今の pH の値の計測値について補足の説明をされたほうがいいんじゃないですか。
- 【事務局（山口）】 丸で示されている赤丸、青丸が、現地で採水して室内で分析した正規の値のものでございます。グラフで波を打っているものは、簡易の pH 計で計測しているものでございますから、やはり室内分析とはおのずとちょっとデータが開きが出ています。
- 【堀内委員】 先ほど、pH メーターの故障で低い pH が出たとおっしゃったんですけど、それだと両方とも故障していたという説明ですか。大萱黄瀬戸橋下流の自記観測値の pH も同じタイミングで下がっていますよね。それはどういう、どこが故障なんでしょうか。
- 【事務局（山口）】 故障ではなくて、簡易 pH 計のセンサー部分（感知部分等）の掃除をしました。
- 【堀内委員】 両方ともこのときに掃除されたんですか。
- 【事務局（山口）】 はい。
- 【佐藤委員長代理】 数日来の雨じゃないですか。
- 【大沼委員】 だと思います。
- 【堀内委員】 雨の降り方も非常に多かったですね。雨が多いと pH が下がるのはずっと続いている傾向ですけど。
- 【事務局（山口）】 時期的にも、これは夏ですが、そういう時期とも重なっているとは思われます。
- 【事務局（堀）】 先生の御指摘は、このグラフのところですね。下から突き上げているのが雨量のデータでございます。雨が降った後に、浸出水のところで酸性水が出てくるという状況（メカニズム）だったと思われます。
- それに加えて、山口から話がありました清掃時期が重なったというところがございます。要素としては、雨による影響で降雨後の酸性雨が出ている状況だと考えられます。
- 【山下委員】 こっちを信用するんですか。
- ついでに聞くと、べらぼうに数値の高いときがありますね。
- pH10 なんていうのが、これはどういうふうに説明されるんですか。水量が増えて低下したというのは説明どおりかもしれませんが、それ以外にそのすぐ後ろに pH10 とかべらぼうに高い数値があるんだけど、これはどういうことですか。
- 【事務局（山口）】 pH10、左手の平成 26 年の 2 月、3 月、4 月ごろかと思われますが、このころはまだプラントが稼働していたころで、浸出水（しみ出てくる水）をプラントで中性化するために薬剤等処理しております。その関係で上がったたり下がったりという状況が発生しているものだと思います。
- 【佐藤委員長代理】 山下委員いかがですか、納得されましたか。
- 【山下委員】 結局、どちらを信用したらいいの。室内分析値か自記観測値かどちらですか。
- 【事務局（山口）】 正式な値としては、室内分析値をとって pH の値としています。自記観測は、現地でリアルタイムに確認するというため簡易計測計もつけてございます。どちらかというと簡易計測計のほうが低目に出ているということで、ある意味安全側に作動している状況なのかなと思われます。

【佐藤委員長代理】 議事の（２）水質分析・水生生物調査結果について、説明をお願いします。

事務局からの「（２）水質分析・水生生物調査結果について」説明

【佐藤委員長代理】 ただいまの報告に対して、御意見、御質問を受けたいと思います。

【梅田委員】 ５ページの上段に既設盛土の天端覆土工完了後とは書いてあります。水量が大幅に低減したというようなことでしたが、この浸出水湧水量のグラフ（図）で

は検証できていないような状態です。27年4月から。減ったという判断はどこでされましたか？

それと、大平の日の降水量は、どこではかっているか（どこがはかって、どこが公表されているか）？

水量が低減したという根拠になったデータをお願いします。これだけ大きな題目で出ていますので、そこだけ一つ疑問に思いました。みんな出た量、毎分何リットルと載っていないので。それがないと、低減されたといってもわかりません。

【事務局（山口）】

浸出水の量が減った、低減したということですが、5ページの表、既設盛土の天端盛土工完了を境にして、水色の棒グラフですけれども、かなり小さくなってきていることが読み取れると思います。コルゲートの東+西という形でちょこちょこ出ておりますが、かなり落ちているのかなということでございます。

【梅田委員】

それで今のことが保証できるということですね、減つとるといの。

【事務局（山口）】

そうですね。

【梅田委員】

この前、9月20日ごろ大雨が降ったら。2ページの放流地点の前のますより水がオーバーフローして道路に流れているという報告を受けたので見に行ったら、オーバーフローして茶色の水が流れていたような状態がありました。

減っているなら、幾ら目詰まりするにしても、減っているならオーバーフローしてないのに。その後の雨に行ったらなくなっていました。それから清掃されたんですか。僕だけではだめだったので第三者（いろいろな人）に見てもらい、オーバーフローを確認した。

そこの枒から色が変わった水が流れていたような状態です。僕らもそこらははっきり判断できなかった。本当に盛土が完全な管理されているかということが心配なので質問しました。

【事務局（山口）】

まず、雨量の観測の場所ですけれども、大平というところで独自に雨量計で観測してございます。

【加藤委員】

大平のどこだっていうことを聞いているの、大平って広いね。

【梅田委員】

公表されとるかね、それは。

【事務局（山口）】

公表はしてございません。

【加藤委員】

何でしないの。

【梅田委員】

それを書いてもらっても比較しようがないので、僕ら多治見のやつで一応やっていますけれども。

【細田委員】

通称大平っていうのは、土岐川に流れる地形なんだよね。

大萱からずっと上がって行って峠があるところよりも手前でなければこのデータには関係なくなってしまう。大平ということと言われるとなると、場所をしっかりと示さない。

【加藤委員】

山のあるほう。

前回もたしか大平のどこだっていったところの、明快に答えなかったですよ。

【大沼委員】

アメダスではないんだよね、独自の。

【加藤委員】

うん。だから、独自のとおっしゃって、公表できないっておっしゃったから。公表できない理由は何。公表できないというのはおかしいでしょ。

【事務局（山口）】

お配りしています資料3の一番最後のページですが、地図が載っていると思いますが、左手の図面の下真ん中あたり、降水量観測地点というポイントがございます。参考資料になります。

【田口委員】

再三僕がかつてこの会議の席上でも言ったんですけど、雨量計設置の場所が違うと、あそことは。雨量の量が違うからプラントの近くに設置せよということのを再三言っとったんですけども、この件については。

例えば、そこでも違うし、久々利の公民館の上にも可児市のつくった雨量計があるんですけど、やはりその3カ所を仮に合わせて平均を出せば大体出るんじゃないかと思うんですけど。

【加藤委員】

なぜそこに設置したかということを知りたいけど、答えないのがなぜというこ

- と。
- 【田口委員】 今の話は、例の東海環状をつくるときに、あそこに雨量計を設置したというふうに一番最初に聞いています。
- 【大沼委員】 プラント用じゃなかったんですね。
- 【田口委員】 プラント用じゃないです、全く関係ないです。だから、それではまずいからプラントの近くに設置してくださいということを再三にわたって言っとったんですけど、なかなかそれが実現できない。
- 簡易測定は、旧プラントの上にはあったみたいですね。こんな小さいものが上に設置してあったということは、僕も現地は見ましたが、そこでならきちんとデータを出しているかといったら、出してはいなかった。置いてあっただけという感じ、僕の印象では。
- 【梅田委員】 測定記録に、最後にちょっと降水量ということで原水、ホームページで出してもらったら、最後に降水量ということでぼつんぼつんが入っていますけど、0.5mmとか7.5とか。それが1カ月に2、3遍。これはどういう降水量。前の資料にはこういうのがついていましたけれども。こんな少ない、皆さんホームページを開いてやると出るそうですので出してもらったけれども、そうしたらこんな水量がぼんぼん出てくる。実際に降った量かねこの。
- 【事務局（堀）】 ホームページに毎月公表させていただいているデータは、みなさまから只今ご指摘いただきましたが「大平」の地点を公表させていただいています。
- これまでの協議会からずっと大平の地点の場所で独自（多治見砂防国道事務所で雨量自動記録計を設置）にデータを毎月回収し、降った量を載せさせていただいています。
- 時期によっては雨量が少ない場合もありますが、夏とか9月は今までのデータから見させていただいても大量に降った後に侵出水の濃い酸性水が出てくるという実態かと思われま。
- 毎月公表させていただいていることにつきましては、場所の地点が違うという御指摘は先ほどあったものの、大平を公表させていただいております。
- 【加藤委員】 さっきの細田さんの質問には何て答えるの。流れる方向が違うから意味ないんじゃないのという質問にはどう答えるの。意味のないところではなかったでしょうがないんじゃないの。
- 【事務局（堀）】 その辺は議論があるかと思いますが、今までの解釈としては、多治見のアメダスだと遠過ぎるということもあって、一番近い大平を代表地点として捉えさせていただいていたというのが実態でございます。
- 【加藤委員】 それはわかるけど、地元の方が言っているように、流れる方向が違うんじゃないとか、田口区長のときに一番適切な場所を提示したわけだから、それを取り入れないのはなぜかということを知りたい。なぜこだわるのということ、あなたたち、自分たちが選んだ測定地に。そんなくだらないことで、瑣末なことやってることないんじゃないと私は思うけど。
- 【佐藤委員長代理】 今までの調査研究の連続性、そういうことですな。ここでいきなり変えると評価が随分変わるかもしれない。
- 【加藤委員】 そういう理由を説明してくださいよ。
- 【佐藤委員長代理】 連続性というのは大事ですよ。
- 【加藤委員】 何で学識者が答えるの、そこで。おかしい。
- 【高木委員】 今と同じ質問です。
- これは意味ないです、はっきり言って。大平の雨量計のあれは意味ないです。先ほどからおっしゃっていらっしゃる土岐川のほうへ流れるところに雨量計をつけても、盛土のほうへは水が流れないですから全然意味ないです、これは。要は、おたくさんたちが現場を知らないということです。
- こういう峠になつとるこちらへつけとって、水はどっちに流れる、こっちに流れる。山のてっぺんで考えてみても、雨量計がこっちについとればこっちに水が流れるでしょ、こっちにつけたらこっちへ行く。これはどこにつけてあるとお思いですか。大平側ということは、水は土岐川のほうへ流れる。それでは今

	のデータのあれは意味がない。
【加藤委員】	どういうふうで設置したの。
【高木委員】	つけるなら、ゴルフ場の入り口、富士カントリーの入り口、あの辺につけないと意味ないです。つけ直してください。
【事務局（山口）】	ただいま御指摘いただいた意見につきましては、雨量計の設置場所とプラントの近く、ゴルフ場の入り口等、御意見をいただきましたけれども、その辺に設置することも考えていきたいと思います。
【加藤委員】	なぜそこに設置したか、最初に設置した理由を聞かせてください。そこがなぜ適切だと思われたのか。影響がないからそこにしたいみたいに疑われちゃう。
【事務局（山口）】	古い話なものですから。
【加藤委員】	根拠があるんでしょ。
【事務局（山口）】	はい。その辺は調べてまた御回答させていただく。
【加藤委員】	調べなきゃわからないの、最初に設置した理由。大した根拠なくつけたということ、そうすると。
【事務局（山口）】	たまたま工事をやっているときに近くに電源があったからとか、そんなような理由かもしれませんが。
【田口委員】	僕も単純だと思うよ、あったから使わせてもらったと。
【加藤委員】	悪意にとれば、なるべくこのデータで影響がないように。それも考えられなくもないよね。
【田口委員】	だから、とにかくプラントの近くに設置してほしいと、現場近くに設置してほしいということを要望したという、僕のほうからね。
【加藤委員】	だから、要望したのになぜ取り上げなかったかって聞いているのよ。
【田口委員】	そこが問題ですけどね。
【加藤委員】	今の回答は検討してみますでしょ。官僚の検討は、しないということ。そのように解釈させていただいているけど、私たちは。反論があったらどうぞ。
【事務局（山口）】	頑張ります。
【足立委員】	数字的に正しいか正しくないかというのは別問題として、雨量による正しい数値が出てこないということであると、基本的に過去にはかっていたものと、これから雨量計の位置を変えたものと違う可能性が出てくるんですよね。そうなると、今までやってきたことが何なのという話になる。 であれば、努力しますじゃなくて、速やかに雨量計の設置場所を変更してきちっとした形のものを出しますという回答をしてもらわないと、やってる意味がない。ですから、今もおっしゃったんですけど、官僚の努力しますはやらないということだという話ですけど、努力じゃなくて変更しますという言葉は少なくともここでは出してもらわないと。 もう 10 何年やっているんですよ、こんなことを。これでやるとまた一からになっちゃうんじゃないですか。もう少し本当に地元の人のことを考えた対策をとってもらわないと、あなた方がそういう態度をとっていると、観測しました、分析しました、この数字本当に正しいのという話になっちゃいますよ。豊洲の問題じゃないですけど、うそのこきまくりでごまかして表に出してすんなり通っちまえばそれは知らんぞと、臭いものにふたしちまえば終わりだよという考え方が見えてくるんですよ。 だから、田口委員長が前もおっしゃったように、前からそれはお願いしとるという話があるわけですから、なぜそういうものを真摯に受けとめてきちっとした対応をしないのかということですよ。 ここでお答えをいただきたいのは、測定位置を変更しますと。少なくともそのぐらいの答えを出してもらわないと、これやっとなる意味ないですよ、10 年も。今のお話で、雨の量をとっている場所が違うのが大きな問題だというお話ですけど、極論を言えば、ここの埋め立てのところに置くのが理想であります。でも、これは雨が降ったときにどれだけ地下に浸透して浸出水量がどれだけになるかという関連づけや、あるいはそういう解析（モデルを使ってそういう分析）をするのであれば、できるだけ精度の高い、その場所にどれだけの雨が降った
【堀内委員】	

かというのを知る必要があります。でも、それがこの場で議論している本質ではないはずです。

一番重要なのは、浸出水の水質がどういうものであって、それが迂回水路に入って、それで黄瀬戸橋でちゃんと環境基準を満たす水質が保証されているかというところが重要なので。雨は、皆さん御存じのようにちょっと場所が違えばやっぱり降り方って全然違うんですね。だから、ゴルフ場のところでやっておいたとしても、正確なものではありません。

流域が違うというお話ですけども、流域に降った雨がどれだけ河川に流れ込むかという水文学的な解析をする場合もありますけど、これもあくまで降水量は場所によってすごくばらつく部分がありますので、いわゆる1対1に対応するものではないんですね。ですから、そのところはちょっとわかった上で、本質のところを見誤るといってか拡大解釈されると、ちょっとこれは議論のすりかえみたいになって非常に残念な結果になると思います。

【足立委員】 だから、議論のすりかえをされるようなことをしたことに問題があるんです。
【堀内委員】 そのあたりは、信頼関係の問題が本質的にあるので、以前にそういうかけ違いがあったので今このようにおっしゃられていると思うんです。

【足立委員】 お願いしたことをやっていないということなんだから。
【堀内委員】 そういう意見をされるのは私もわかるんですけど、でもそこは本質ではないので。あくまで今やっている浸出水の水質がどうなのか、それで今のこの対策が妥当なものかというところを、もう一回そこに立ち返って議論していただかないと前に進まないと思います。

【加藤委員】 だとしたならば、両方やってくださいよ。継続性の問題を佐藤先生が言われたけど、継続性で今まではかっているところと違うというなら、それはそれでやればいいし。今度、新たに非常に影響が、現場の影響が強いと思われるところと両方やっていただければベストじゃないですか。そうしたら変な疑義持たれないし、私たちもそれで、現地の人間も納得するならそのほうがいいんじゃない。すごいコストがかかるわけでもないでしょ。

【竹谷委員】 堀内先生の話、私もよくわかりました。
一つ、このグラフの凡例の線の太さがちょっと違うものですから、ひょっとしてこれで皆さん誤解してみえる方があるんじゃないかなという。降水量が太線で太くなっていますよね。下のコルゲート西+東のあれが細い線になっていますよね。だから、皆さんこれでひょっとしたら誤解してみえる点が。

【加藤委員】 何ページのことを言ってるの。
【竹谷委員】 全てそうだと思います。全て大平の降水量とコルゲート東+西の太さが、このグラフと凡例と、何か誤解を招くような感じで、皆さんひょっとしてそれで誤解されている部分があるのかなということを思いましたが、どんなものでしょう。

【事務局（山口）】 今いただいた意見のとおり、色と線の太さで誤解を招くかもしれませんが、イメージ的には大平の降水量が下から伸びている小さな棒グラフです。下のコルゲートの東+西というのが太く見える線でございます。

【梅田委員】 今の質問だと、色を変えるとこの降水量が消えてしまうような気がする。逆になると今度、上のほうが細くなったら上のほうが切れてしまうような。やっぱり太さ一緒に色で変えるぐらいにしないと。今だと消えてしまってる。

【事務局（山口）】 表現方法については工夫させていただいて、誤解のないようなものにしていきたいと思っています。

【大沼委員】 今の浸出水の量ですけど、国交省の皆さんもみんな担当がかわって昔のことを御存じないんじゃないかと思うんですけど、覆土したいというのは国交省側の強い提案で、住民がというか大萱の方たちは覆土ではとまらない、むしろ汚染した部分を除去してほしい、撤去してほしいというふうにならずと頑張ってるんじゃないかな。

あのとき国交省の事務所長（委員）さんがここにいらっしゃって、覆土させてほしいと。それで結果がうまくいかなかったら掘り起こしてもいいですよとま

でおっしゃって、やったんだけど、覆土の後どれだけ浸出水量が減ったかという検討をここの何回目かの協議会でやって、思うほど減らなかったというのがこの場の確認だったと私は思っているんですね。

そういう意味では、覆土以後減ってよくなったんだというのは昔のことを知らない人の発言で。あの直後に解析したときは思うほど減らなかった。つまり、数分の1になるとおっしゃったんだけど、そうはならなかったんですね。それは、横方向からの地下水があって、上から降ってくるやつだけとめてもとまらないんだということがそこで証明されたことになったんですね。そのことを把握してほしいんです。とすると、この覆土の前に高いピークが出てくるところを外して、覆土後の浸出水の量の推移を見てみると、これは減っているというふうにはとても言えません。そういう意味では、覆土した後思うほど減らなかった量でずっと今日まで来ていると浸出水の量は考えるべきではないでしょうか。

これについて、当時課長さんと議論したことがあって、横方向をどうしても止めないと減らないよという話をして、上流側に矢板を打ったりとかそういうのが要るんじゃないのという話をしたんですが、そうやって下手にとめると今度は土圧が上がって土砂崩れの原因になったりするから簡単には止まらなくて。それこそ福島事故を起こした原子炉で議論されているように、上流側に例えば地下水をくみ上げるような仕組みをつくらないと、ただとめただけではうまくいかないんだみたいな議論はしたことがあります。つまり、横方向からの水がなかなかとまらないから思うほど減っていない、これは確認事項だと私は理解してこの13年間の協議会につき合ってきたつもりでいます。

【事務局（山口）】

先ほどの御意見で、効果があまりなかったということですが、覆土完了以降、ピークはちょこちょこございますが、ベースとして落ちているのかなと、ピークのものをカットして見ていただくと下がっているのかなということが読み取れるのかなと。

あと、カドミウムとか鉛とかの流出量に関しても、覆土完了後はかなり効果が出ているのかなということは読み取れると思います。

【山下委員】

下がっているのかなじゃなくて、もし下がっているならば、これは1年間トータルできちんと議論すべきじゃないですか、今おっしゃったことは。下がっているのかなではなくて、ちゃんと下がっているんだとおっしゃりたいなら、降水量を1年分全部積分して、それから浸出水も全部足し算して、どうだというのが普通でしょ。グラフ見ただけで下がっているのかなって言われたって、わからないですよ。

【佐藤委員長代理】

今すぐ答えられるようなデータはお持ちですか。ないなら、持ち帰って事務局で少し検討していただいて、皆さんに事後報告するなりそういう対応でもよろしいですけど。

【加藤委員】

13年も続いていたということぐらいが本当に驚異でね。私、その意味では本当に行政側を評価していますよ。

大沼さんじゃないですけど、私たち素人は本当に何もわからないんですよ。私なんかは数値だとか環境基準だとかいうこと自体も全くわからなくて。13年やってこれたのは、やっぱりお互いに信頼したいという、それもベースにあったし。それでもなおかつね、国交省としては誠意を示したんだなと私は評価しております。

専門家委員の方々だって随分意見が違うわけですよ。ましてや、私たち地元はわかりかし皆さん継続的に10年以上やっていらっしゃる方がいるけれども、行政は2、3年でころころかわるわけです。これをクリアするのは大変なことで、一番最初この協議会ができたときに思い出すのは、大沼委員がおっしゃった覆土をしたならばこれは長引くことになるんじゃないかという専門家の意見でした。環境の専門家でいらっしゃる大沼さんが言ったことは、ああそうなんだと、上を張って流れないようにすればよくなるんだなって私たちは思ったんですけど、かえって上にふたをするんだから中のものはいつまでも、急激に

変わるわけじゃないからという理解をしていました、素人の理解を。まさにおっしゃったとおりに 13 年たってなっているなど、急激にはよくはならないけど、少しずつ変わって数値的にはよくなっているのかもしれない。

ただし、私たちが心配するのは、それこそ崩落であるとか地震が起きたときに大丈夫なのかという問題と、最初の工事のときにはまだ現場に入っていましたから何遍も入っていきましてし、写真もまだ保存してありますけれども、あのコルゲート管、ちゃんともっていると思えないんですよ。その当時でもがれきだとか木の根っこだとかが大分突き刺さったりして破損していましたから、幾ら上にベントなりで引いてあれしたっていったって、十何年ももっているのかなという不安はあるけど

その点は大丈夫なんですかね、今村先生。

【今村委員】

覆土後の水量の効果検証を第 8 回、9 回の協議会でやっている。コルゲートの最大浸出量が（同じ降雨量に比べ）10 分の 1 ということで、終わってる。

【加藤委員】

国交省も、これを書くなならその値をつけないとわからないと思います。

値をつけたってわからないですよ、素人には。そんなものなのかってだまされちゃうおそれがある。

だけど、13 年たって、本当に内蔵しているコルゲート管と周りの土砂を含めて保証できないでしょ、見えないんだから、レントゲン通しているわけじゃないんだから。一遍レントゲン通しましたよ、そのとき既に破損していましたよ。あれ 3 年後でしたかね、梅田さん。ロボットみたいな機械をずーっと入れてやったときに、もう既にそういう状態でした。何力所か破れていました、そこから水が出ていました。それからでも 10 年たっていますから、大丈夫なのかという不安はぬぐい切れないんですけど、どうですか。

【田口委員】

コルゲート管の調査をしていただいた。それが第 6 回か第 7 回位（正しくは第 5 回）の資料に添付されています。だから 30 年、40 年というスパンでコルゲート管は一応もつと。

破損したともし言われるのなら、それは差し込んだ部分、よそからコルゲート管、小さい管を持ってきて本管へつなぎ込んだところの写真はありました。だけど、あれは破損じゃなくて、田中さんも盛んに言ってみえます、昔あった排水管を本管に、要するに東コルゲート管に接続した部分が写真には写っていました。だけど、それ以前のものは僕たちも、可児市さんから提出してもらったいろんな当時の現場の写真なんか見せてもらっても、破損しているようなところは、全然報告はなかったし、見てない。

【加藤委員】

そう言っちゃまた問題になるけれども、可児市や国交省が撮ったカメラ内蔵の写真じゃなくて、私たちは私たちで、当時も信用してなかったから。それにはちゃんと破損して突き刺さっていましたから、木の根っこみたいなのが。そこからぴゅーぴゅー水が出ていたんですから。あれ本当に大丈夫かなっていう不安はありますよ。

田口さんもよく御存じだけど、そのころはまだ現場に入れたんですよ、特に地元の人たちは。だから、しょっちゅう現場へ行って、泡の立ったのやらを見ていましたから。あなた方は全くそういう現場を御存じないけれども。そういう疑問に答えられる専門家はどなたですか。

【今村委員】

おっしゃっていることは、覆土して下のコルゲート管が壊れたかということですか。約 40m 上でブルドーザーが走って、40m 下のコルゲート管が壊れるかということですね。ほぼないですね。大体車幅の影響範囲は、上が乗って管が壊れるのはせいぜい 5、6m の話なので、40m 下の管がブルドーザーが乗ったぐらいで壊れるようなことはあり得ないです。

もし壊れているとしたら、別の原因か最初から壊れているかだと思います。40m 上でブルドーザーが走ったからといって、40m 下の管が壊れることはないと思います。

【加藤委員】

地震とかに関しても。

【今村委員】

地震とかはまた別の問題で、それは全然別の問題ですから。地震があったら、

【大沼委員】	別に覆土しようがしまいが壊れるので、それはまた別問題です。
【田口委員】	梅田さんの質問に一つまだ答えてないんじゃない、あふれたという話。それは事後報告もなかったし。そういうことがあったら当然今日の報告書の中にあつてしかるべきでしょ。
【加藤委員】	その件ですけれど、僕のほうへ国交省さんから報告が実はありました。
【田口委員】	あったのはどういうことかといったら、プラントの点検をやらせていただきましたという。実際稼働させたと。常時稼働してない、ある程度緊急に稼働しようと思っても無理な話だから一回やっぱり稼働させたと話です。そのときに調整ミスで大量にあふれ出たと、流しちゃったと。それが結局は中間の、途中、修理屋さんのところ。
【加藤委員】	何年何月の話。
【田口委員】	まだこの11月ですか。
【梅田委員】	その現場に僕が実際立ち会いまして、それは点検上やれば起きる可能性があるから、それはやむを得ないんじゃないかという話をしていたんです。
【事務局（山口）】	その後、その経過報告、きちんと報告書をつくって出していただきたいと山口課長にお願いしたかったんですが、いまだ僕の手元に届いていないという結果になっております。それは多分去年の11月ぐらい。
【田口委員】	9月10日のことを言ってる。
【梅田委員】	まず日付ですけれども、10月26、27日だったと記憶しております。
【田口委員】	そのことじゃないんですか。
【梅田委員】	雨が降った（3ページの図で見ると）9月20日ごろに大平で降水量110mmというのがあった。その時に漏れている情報を聞いたので、9月21日に見に行った。
【加藤委員】	21日だね、私がその日に一緒に行った。
【梅田委員】	報告を受けた為、僕だけではあかんということでいろんな方に情報を流して。枡が漏れたといっても、後方から流れとるかもしれんもんで、確認をみんなにとったわけです。
【加藤委員】	タイル屋さんのところの写真も撮ってあるで見ればいい（赤土がバァーと道路にオーバーフロー）。
【佐藤委員長代理】	今御指摘あったのは、1.2の3ページの平成28年7月1日の右横の9月の辺のピークのところですか。
【大沼委員】	そうです。ここで起きたんじゃないですか。雨水がどさっと入って、多分のみ切れずに。
【佐藤委員長代理】	さっき議論になったところですね。
【梅田委員】	それで、僕がここで天端に異常がないかといって疑問を持ったところです。
【大沼委員】	梅田さんから送ってもらった写真をパワーポイントにしたのをさっきパソコンに載せました。
【山下委員】	日付も入ってる。
【大沼委員】	日付は入っていないと思います。でもそれは、撮った人が21だと言うんだから、そうなのでしょう。
【加藤委員】	こういう汚泥状のものが噴き出したということですね、21日に。
【加藤委員】	最初に見に行ったときはこれよりもっとひどかった。
【大沼委員】	私が見に行ったときは、道路を縦断していました。
【大沼委員】	次の雨量データは、大平ではありませんが、多治見のアメダスのデータです。月末のこの10日間にたくさん降っています。105mmだけでなく、40mmも2、3回降っています。だから、大量にこの時期降ったので浸出水がどっと増えたと思うんです。しかも、SSが低いという話でしたけれども、ああいう状態（汚泥状のもの）で噴き出し、のみ切れないで相当に濁ったどろどろの水が噴き出したと考えざるを得ないです。
【大沼委員】	次の画面は、さっき議論した部分のところですよ。まさにここで起きた事件だと思うんですよ。
【大沼委員】	もう1枚めくってもらおうと、これは10月分の、インターネットのデータをプ

ロットしたもので、右側にぐんと大きく下がっています。去年の9月のデータで、9月20何日に大きくpHが下がったという図です。

しかも、これがさらに左側へ、もう一回原点のほうへ戻ると10月からのデータが1カ月分プロットしてありますけれども、過去のデータ（前の年とその前の年の10月）がプロットしてあるのに対し、一遍下がると20日間以上低いpHが連続したという、非常に下がったままで起きた。しかも、この水がどっかの時点で噴き出したということですよ。

一度下がるとしばらく回復しないというのは、この10年のトレンドそのものですからね。でも、相当に降ったために低いpHで、しかも大量に浸出水が出た、それが何かの事情でとにかく迂回放流管の末端付近で噴き出したということです。その水質のデータがその後に入っています。9月30日の国交省のデータを参照したのが入っているはずですが、21日のピーク時ではなかったんですが、少しやや回復しかけのときのデータが。

国交省の9月30日のデータで、このときコルゲート東、東と西を合わせたプラント原水で、カドミウムが0.004ですか、それから38でしたっけ。だから、環境基準ちょっと超えるぐらいの濃度になったというのと、ふっ素が1ppmですか、この基準が0.8ですけども、そのぐらいを超えるようなデータがこのときあったということですね。

なので、21日に噴き出したとすると、10日間ぐらいはこれよりもやや悪い水が出たということになるんじゃないでしょうか。なので、まだまだ予断は許さない状況なのかなとこれを見ながら思ったんです。

【田口委員】

かなり大きな出水だったということ、排水量。

【大沼委員】

まだまだね。10年たってもあまり変わっていないという、水が出たということですね。

【田口委員】

オーバーフローするということは、管が小さい。

【大沼委員】

のみ切れなかったんでしょね。

【田口委員】

そうそう。だから、枡の中で噴き出ちゃったと。

【大沼委員】

少なくとも報告しないとイケないですよ、そういうことがあったら。もうそろそろ手を引いてもいいんじゃないかという結論になっていますけど、そうではないんじゃないかなと思います。

【田口委員】

僕もお願いしたいんだけど、僕たちも現場から離れているわけですから、特に梅田さんたちすぐそばに住んでみえるので、我々のほうに報告していただきたいと思うんです。そうすればすぐに対応ができた。ところが、僕今初めて聞いて。てっきり僕は今言ったようにプラントのあれだと思い込んでいた。だから、即やっぱり報告していただければ僕たち、事務局の代表として行く、対応しておるわけですから、すぐに連絡を。

例えば先ほどのプラントの話でも、すぐに対応してすぐそういうことをお願いするという形をとるわけですから、やっぱり言っていただかないと僕たちも対応しようがない。それは今後気をつけていただきたいと思います。そうすればすぐ対応ができるという。

【佐藤委員長代理】

何か事務局からありますか。言ってみれば緊急時の連絡体制みたいなもの。

【事務局（山口）】

10月に関しては、田口委員にも報告させていただいております。9月18、21の事象に関しては、我々も把握しておりませんでしたので。こういう事象があれば、また御連絡いただければと思います。

【加藤委員】

原因がこれだったという確証がなかったんですよ、私たちは。ただその日に見て、今までにない茶色の汚泥がぱっと出ているから、さてこれは一体何なんだろうということ。

【田口委員】

ただ、図面でもわかるように、コルゲート管から直結しているわけですから、簡単に言えば。問題が起きればあふれるということは、間違いなく容量が。排出量が多いわけですから。

先ほどの10月の件は、プラントを稼働させた、稼働させたことによって調整不十分でぱっとあふれ出たという形だったものですから、ちょっと違いますけ

【梅田委員】

【田口委員】

【田中委員】

れど。

今の話だけど、ぱっと出たというのはどこのことを言われるの。

修理工場の前の鉄板で蓋がしてある枡のところですよ。あそこからあふれ出た。

話を聞いて、本来の目的はこういう会議じゃないんです。前回の1年前には、今回19回ですね、こういう会議をしながら、その都度その問題点を曲がりなりにも了解しながらずっと来て、それを今またひっくり返すようなことばかりやって。

今回やるのは、迂回水路の結果報告ということです。それでいいわけ、30分で終わってもいいんです。問題をずっと解決して、残ってるのは水を流している、その結果だけを知りたいということですから。それを今ずっと継続して今回また1年やって、結果的には問題ないということで出とるはずだけど、そういう説明はまだしてないんだけど。それを30分でやって会議終わればいい会議なんです、はっきり言えば。今までは2時間、3時間やってもよかったんだけど。ずっと解決してきて、プラントも壊そうかなと、前回壊したらどうだということも言ったんですけど、国交省がもう1年置いておくということで、結果を見てからということでこの前は終わっとるんですよ。その結果はまだ報告してくれてないけど、実際には問題ないわけですよ。

そうすると今の段階では、あれが2年も3年も問題なかったら大丈夫なはずです。先生方が見とったって、私も水の問題ちょっとやったことあるけど大丈夫なんです。そういうことを忘れてまた重箱の隅をつつくようなことをやったりは恥ずかしい、こんな会議は。

私がもう一つ言いたいのは、国交省にも毎度言っとるんだけど、国交省の皆さんは2年、長くて3年でかわっちゃって、いつも言うから私がいつも説明して、しっかり引き継ぎしなさいよと言っても引き継がないから、またこういう1年生のようなこと言い出す。前回も私それで怒ったことあった。あなたにそう言ったわね。また今回も同じことやっとする。

だから、今の迂回水路の結果をちゃんと報告して、それをみんなに知っていただくというのが一番大事なことなんだよ。それ以外のこんなことなんか問題ないんだわ。もう既に終わってきた、その都度みんなが了解してきたわけでしょ。今残ってるのは、迂回水路で出しとるのが、水路の水質結果だけが問題なんです。それも1年また問題なかったでしょ、前年も問題なかった、それでどうするかということ。

去年あなたたちと話したときには、せっかくだから今年度も、新しい年度もう1年やると。やっていただくのは結構なことだからいいでしょうとは言ったけど、そう言いながら以前のことを引っ張り出してこんな意味のないことをやっても意味がない。はっきり言って、この会議で紙1枚でいいんですよ。この結果をちゃんと書いてわかるようにして。会議なんか長いことやればいわけじゃない、30分で終わったって1回は会議ですから。一番大事なことは。

一番いかなのは、あなた方に対して変な、失礼な言い方になっちゃうかもしれないけど、交代しなすぐまた1年生みたいになっちゃうから同じことを繰り返すんだわ。そのことを私何回も言ったでしょ。あなたの前任者にも言っとったし。役所はそういうふうでしょうがないだろうけど、そのかわり引き継ぎはしっかりやって。また新たに一から十までやらないかん。今言っただけじゃない、去年もそう言ったはずなんだ。

だから、今回も今の迂回路の結果を報告してもらって、それをまず最初にやってそれで終わりでもいいと思うんです、私は。こんなことごたごたやっとして、聞いとるだけでもあれですわ。あまりにも中身がなさ過ぎる。こんなこともう10年ですよ、10年過ぎちゃってる。こんなことじゃだめですよ。市のほうも担当者かわられるけど、国交省もかわられる、私らはかわっていないんですよ。だから、今までのことはその都度一応曲がりなりにも了解してきたもんだから。皆さんそりゃ一物あっても了解していたから、それを今ほじくるといふことは必要ないはず。迂回路の管理さえしっかりして、結果さえしっかりして、

それを報告してもらえばそれでいいんです。

あとはプラント、我々は知らないけど、いずれは撤去せないかんで、終われば。その計画はどうなっというかと、いつも聞いとるでしょ。そういうことが残したら終わりじゃないから、撤去して復旧して初めて終っちゃうわけね。プラント撤去でまた何千万かかるでしょ。それも計画は早くしといて、市と打ち合わせするなりしといてもらわんと。日本の中で逃げるわけにいかんで。どっか行かれるにしても、国交省も知らんぞではまずいもんだから。そのことも、既に撤去の段取りがついとるかなと思って、それもちよっと聞いてみたいなと思うくらいです。今考えてみえるか、どういう処理をしようとして概算のあれをやってあるのか。そういうことです。

【佐藤委員長代理】

(2)の議事のところで、ほかに何か御意見等ございましたらお願いします。なければ、田中委員さんがおっしゃられたような今後の方針、事務局いろいろ考えていただいているようです。

【梅田委員】

その前に今のことについてちょっと質問したい。

僕らはだだらやっという意味にとっていませんので。ここがいいから次に進みましょうって進んできとるやつを、その結論を何で出すといたら会議のほかないと思う。いい方向に進んでいますよって言われるなら、会議がみんなに同意をとって進めている。その会議が重要なのに、撤去撤去と言われても、その根拠をみんな、いいですからという資料を見て初めて判断できるので。この先、わからんと言っるときに、そういう一方的な撤去というのは。いろいろな考えがあってもいいと思うよ、こういふときにいろいろな意見を出してもらって、それを最終的にまとめるのが議長さんやもんで、あっちがいいと思えばあっちへ進めてもらえばいいし、ほかの意見も出ればいい。ここはいろんな、極端なことを言えば反対側がまるきり言って討議してもらっていい方向に進めたい。皆さんがいろいろな意見を出してもらわんと。一方的にそういうことを言われたら僕らは何も言えんようになっちゃう。みんなの意見を聞いて、それでみんなが進んでいこうと思って僕らやっている。

【佐藤委員長代理】

いやいや、大体皆さんそういう。協議会です。

【梅田委員】

報告会なら報告で終わって、その報告のとおりに進めればいい。

【加藤委員】

久々利区協議会の組織図って変わったんですか。田口さん、一般選出って今日書いてあるけど。

【田口委員】

名簿に書いてあるとおりで。

【加藤委員】

あなたは委員長でしょ。

【田口委員】

いえ、違いますよ。

【加藤委員】

今はどなたが委員長なんですか。

【田口委員】

連合会長が委員長です。

【加藤委員】

そうですか。連合会長さんがイコールこの水質対策協議会の。

【田口委員】

久々利の委員長です。

【加藤委員】

前は違ってましたよね。細田さん、田口さん。

【田口委員】

いや、全部そういうことになっています。

【加藤委員】

そういうふうにならなっていましたか。

【田口委員】

はい。

【加藤委員】

それじゃ、私の誤解でした。ごめんなさい。

前は、水質協議会というのは区長さんじゃなくて、細田さん、田口さんというふうで事務局でやっていらっしゃるから、私は今は田中さんの個人の意見として、それはそれでそういう考え方もありだなというふうについていつも拝聴していますけれども、そうじゃなくてそういうふうをお願いしたいというのであればちょっと筋が違って、久々利区協議会の全体の合意ではないですね。田中さん個人の御意見ですね。それはそれであります。

ありますが、一方、そうじゃない大萱対策委員会の意見もここでそれこそ聞いていただき、尊重していただきたいとお願い申し上げます。あくまでもこの協議会は委員長さんの裁量権ですから。そこははっきりさせといてください。前

- 【細田委員】 回もお願いしたと思う。
- 【細田委員】 組織のことをちょっとみんな誤解してみえるんだが、佐々という連合自治会長がやっておられるときにこの組織を立ち上げて私がその責任者になったんだけど、連合知事会長をやることになったから、連合自治会長をやって対策のほうもというのはとっても忙しくてできないと思ったから田口さんをお願いした。田口さんのときから連合自治会長が委員長になるということに変わったわけです。だから、前からそうじゃないんです。私は、連合自治会長が忙しくなるから、そうでない人にバトンを渡したわけ。
- 【加藤委員】 そういうふうに理解していますよ。連合自治会長とこの委員会の委員長とは違うんだなって理解して。
- 【細田委員】 もともとは違っていたんです。
- 【加藤委員】 今でもそうだと思っていた。今は違うんですか。
- 【細田委員】 田口さんのときから変わった。
- 【加藤委員】 それは知りませんでした。
- 【佐藤委員長代理】 山下委員の言われた覆土で浸出水というのは、過去の議事録にあるのでインターネットで調べてください。お願いします。
- 【今村委員】 第8回の協議会で、盛土内のコルゲート、水質の変化ってきちっと書いてあって、これを見ればよくわかります。
- 【堀内委員】 ホームページに公開されています。
- 【今村委員】 協議会で10分の1になるって納得したわけです。
- 【大沼委員】 10分の1になっているならいいんだが、なってないでしょ。
- 【平山委員】 なっていますよ、8回の議事録を見たらいいんです。
- 【大沼委員】 そういう公約だったけど、あまり合わないという議事はあったよ。
- 【今村委員】 実測データだから。
- 【加藤委員】 だから、さっき田中さんがおっしゃったように、みんながもとに戻る。コルゲートの問題もさっき見せたように、写真もある。それは穴あいてない。枝管が出ていたけど、それは違う。
- 【加藤委員】 今村先生そう言うけど、都合のいいデータしか出てこないということもあり得るでしょ。私たちは持っているんだから、あなた見たいなら見せますよ。何も隠し立てはしていませんから。
- 【今村委員】 もとに戻るのはやめましょう。
- 【加藤委員】 いいじゃないですか、議論ってそういうものじゃない。戻ったり行ったり、また前進したり戻ったり。問題があれば立ち返ることだって必要だと私は思います。
- 【今村委員】 でも、第8回は第8回で皆さん納得されたわけだから、終わった話じゃないですか。
- 【加藤委員】 いや、納得していませんよ。大萱は納得してないまま、積み残したままいっちゃったわけですから、久々利区に従って。それはもうずっと、それは内部の問題ですけどね。
- 【佐藤委員長代理】 よろしいですか、また時間があったら質問いただくということで、
(3) 今後の水処理対策と水質監視方針について、事務局からお願いします。

事務局から「(3) 今後の水処理対策と水質監視方針について」説明

- 【佐藤委員長代理】 ただいまの説明に対して、御意見、御質問を受けたいと思います。
- 【今村委員】 迂回水路の計画水量って幾らなんですか。今回オーバーフローしたのが、要は土砂がたまって計画水量が減少したのか、もともとの計画水量が低かったら続けるのもやっぱり太くしないといけない。また同じことが起きるんじゃないですか。

【事務局（山口）】	ちょっとお時間をいただけますか。過去のものを調べます。
【今村委員】	協議会には出ていない、全部探したけど。
【事務局（堀）】	管径の流量というよりも、流末（最終的な放流口）がシャワーの形になっていますので、管径で決まるというより、そのシャワーの容量だと思われます。
【今村委員】	そういうことですか。じゃ、そこプール（集水枡）を広くしないといけない。
【事務局（堀）】	最後の流末のところでシャワー状に小さい穴にしており、そこがネックになったと思われます。
【今村委員】	それは設計が悪い。
【平山委員】	集水枡がオーバーフローしたんだよね。
【事務局（堀）】	口を閉めているものですから、集水枡のところで噴いたのではないかなと推測されます。
【今村委員】	シャワー状にするんだったら、やっぱり計画水量と余裕を見たシャワー状の水量にして、プールもちょっと広くしないとまた同じことが起きます。
【事務局（堀）】	シャワーの穴の数をもう少し増やすとか、当面できる対策を検討させていただいて、対応できるものは早目に対応させていただきます。
【大沼委員】	汚泥状のものが出ているところを見ると、むしろシャワー状の穴が目詰まったんじゃないかな。要するに、設計が悪いというか。ないしは、上で大水が出たときにどろんどろんのやつが落ちこちてきちゃうという意味では供給側も少し見直す必要がある。
【平山委員】	供給側に沈殿槽か何かが必要かもしれないということ。それはあるかもしれない。
【大沼委員】	そう、その仕組みは要る。
【細田委員】	シャワーのところを二股にすることはできないですか、そうすれば排水できるでしょ。（二股にすれば倍出ます）。
【事務局（堀）】	現場を確認して、構造的な改良を検討させていただきます。
【大沼委員】	多分今のままで運用しようとする、大雨が降ったときに現場の点検が要るよね。そういうのをしないと見逃しちゃうわけでしょ。そういう意味では、発見したらすぐ国交省へ通報して、すぐ対応すべきだったかもしれませんね。
【事務局（堀）】	そういう着目点がなかったものですから、大雨の長雨が続いたら一度現地を確認するなどさせていただきます。
【大沼委員】	今の件についてにお話しすると、この結論のところだから 14 ページ、中和処理プラントを動かすとカルシウムイオンやナトリウムイオンが逆に増えるんだからこういうのをやらないほうがいいんじゃないかという、処理しないという理由づけになっているんですが、これはいかなものかと思うデータが 1 個あるんです。 さっきの続きを見せていただけますか。 黄瀬戸橋の水質調査をしたんですよ。なぜやったかという、ちょうどリニア新幹線の工事工区なんですね、あのあたりが。しかも、地上に出る場所が 2 カ所もあるので、トンネルを掘って、トンネルから新幹線が出てきてまた入っていくという。そういう意味では、かつてまさに東海環状自動車道のトンネル掘削残土で汚染が起きたわけですけども、同じような地域に穴を掘るということで、汚染があってはいけないということで、この地域の人たち、御嵩町だとか多治見の人参加して事前調査を、リニア新幹線の工事に伴う水質汚染があるといけないので事前調査しようということで調べたうちの 6 地点のデータをプロットしてあるんですね。 下は元素名なんです。これ、今 ICP-MS という微量分析ができる、しかも同時に 60 元素を分析できる装置があって、それにかけてみたんですね。左のほうはナトリウムだとかいう軽い元素で、右のほうへいくと重い元素がずっと並んでいます。 1 個だけ、右側の重いほうを見ると青い線がずっと上を走っているじゃないですか。これは縦軸が対数目盛りなので、あれだけ開いているということは大体 10 倍、場合によっては数十倍濃度が違うということです。このあたりです。

それから、このあたりはカドミ、ニッケル、銅、亜鉛、コバルトで、これはこのあたり界隈の、御嵩から可児、多治見にかけて幾つかの採水点があるんですが、その中で非常に特異的な水質像が見えますけど、環境基準を超えているという意味じゃないですよ。

これは何かというと黄瀬戸橋の水です。非常に特異的で、ここに有害重金属が少々よそよりは高いよねと、場合によっては1桁か2桁違う数字が出ています。ここが特徴的で。これを分析したときにびっくりしたのは、何でこうなるって。これは希土類なんです、イットリウム、ランタン、セリウム、プラセオジウム。希土類というのは、レアアースといって地球上で珍しい元素という意味で、周期律表でも非常に特異的な位置にある元素です。

これは今戦略物資で、例えば鉄にほんのちょっと混ぜて磁石をつくると非常に高性能な強力磁石ができるので、例えば小型のウォークマンみたいなのが開発されたのは、こういう仕掛けをした強い磁石ができたので小さいモーターができるようになったからです。それから、ガスランタンの発光体、ガスバーナーをつけるとぼーっと周りを照らすような仕組みがあるじゃないですか。あれなんかはこういう希土類が入ってて。それから、かつてテレビのブラウン管に希土を混ぜると赤がきれいになるという宣伝をしたメーカーがありましたけど、ほんの微量ほかのものに混ぜてやるといういろいろなことが起きる元素で、なかなかないんですよ。それが1桁か2桁高いんですよ、非常に特徴的で。

これ、わかりませんが、パイライト、黄鉄鉱ですね。と、多分お友達でいたやつが今出ているのかなという感じがします。これ自身が有害かどうかは、あまり登場しない元素なので議論もされていないし、これがすぐに問題というわけではありませんけれども、黄瀬戸橋のちょっと上流にあの浸出水を放流することによってこういう元素が、ほかの川とはだから違う川になっている。それが魚に効いたり植物に効いたりするかももちろんわかりませんが、とにかく水質像としてはうんと違う川になっているということで、お見せしようと思って持ってきました。

新幹線の工事が始まれば、今度はここからさらに何倍か何十倍かになるようなデータが出てくればその工事に伴う汚染がわかるということで調査したんですが、事前調査でたまたまこの黄瀬戸橋のデータだけがユニークだというのがあったということを御紹介したいと思います。

【竹谷委員】 黄瀬戸橋というのは、いわゆる原水が放流された後の水。

【大沼委員】 そうです。

【竹谷委員】 その周辺の川は、例えばそれよりも右から来ているあれもどこかにプロットされるんですか。

【大沼委員】 周辺の川はそれほど高くないということですけど、周辺といっても御嵩町から2点、美佐野というところがありますよね、あの辺にトンネル掘削残土を埋めるということを御嵩町役場が手を挙げちゃった場所があるんですよ。その下流の川とか。

【竹谷委員】 同じ久々利地帯の支流だとかそういうところの川はそこにはない。

【大沼委員】 入っていますよ。これは小淵ダムへ入ってくる谷がありますよね、小淵ダムのバックウォーターというか満水になったときに水面が沢をずっと上ってきますけど、そのぎりぎりのところに入ってくる谷とか、そういうのもくみました。あそこはトンネルがその谷の上をまたいで、トンネルが外まで高架で出るはずですよ。あそこの谷の水もとりました。

【竹谷委員】 私が思ったのは、その原水が混ざるところと全然混ざっていないところの比較はできているのかなと。

【大沼委員】 久々利川の上流はとってないです、放流前のところは。小さい谷に放流していくから合流していますよね。

【竹谷委員】 青い部分が盛土に起因するかどうかということは、確定ではない。

【大沼委員】 そうですね。たまたま手に入ったデータですから、ここだけ調べて上と比べようと思ってなくて。でも、思いがけない元素が出てきたのでちょっと御紹介

	しようということだったので。今後、もちろん上流側でもとって、やっぱり違うよねというのがわかるといいなと思っています。 でも、とにかく非常に珍しい元素なので。パイライトに付随していたのかなという可能性が強いんじゃないかと思っていますけど、そこは僕は専門家ではありませんので。
【今村委員】	はからないからわからないよね。
【大沼委員】	わからない。でも、希土なんてめったに出てこない。
【平山委員】	わからないですよ。希土類は水門調査でも分析しないから。
【大沼委員】	このレベルだと。
【平山委員】	うん。
【堀内委員】	レアアースは結構ある、そこまでまれじゃない。調べれば出てくる。ここが低い濃度まではかれるから検出されてきますけど。
【佐藤委員長代理】	ICP-MS だもんね。
【大沼委員】	10cc ぐらいでだ一っと出るから。すごいですよ。
	また何かあれば御報告します。
【佐藤委員長代理】	いかがですか、事務局から提案があった内容について。 事務局は、要するに水質調査、水生生物の調査は今後も継続して行いますと、それにあわせて水質も改善する傾向にありますので、迂回水路による対策を今後もしばらく続けたいという提案ですよ。 何かご意見を。
【加藤委員】	大萱としては一応安堵いたしました。田中さんのような提案でこの協議会も打ち切りみたいになっちゃうのかなという一抹の不安があったんですけど、今後も調査を進め協議会に定期報告することを御提案しますという方針に感謝申し上げます。 それと、毎回委員長にお願いしているんですけど、立場の違いはどうしようもないと思う。専門分野の方たちの御意見、久々利区協議会の意見、大萱はいつもごねごね言っているって言うけど、やっぱり地元で、その現場で生活している者の、生活者の意見として、嫌われたくないけどやっぱり言わざるを得ないですよ、自治会を代表して送り込まれている立場として。それをぜひやっぱり、同じ立場に立ってとは、そこまでは望んでおりませんけれども。 今も言ったようにリニアの問題もこれから生じてきますから、常に大萱の里は悲劇の里で、常に何か問題が生じてくるという。それでもみんなあそこで生活し何十年も生きている人たちもいるということのこの立場は、少し寄り添っていただけたらありがたいなというふうに、田中さんお願い申し上げます。
【田口委員】	基本的には提案事項に賛成です。 追加として、調査項目を1カ所増やしていただきたい。それは、御承知のように放流口の上流で簡易測定を、たしか pH の測定をやってみえると思うんですけど、その上流口のデータもできれば添付していただきたい。橋の上流で pH 計を設置して、橋の下流側に落としている。
【田口委員】	本当に橋のすぐ、放流されている橋の反対側、上流側に設置してある。
【平山委員】	いわゆるバックグラウンドを知りたいということですね。混ざる前を知りたいということでしょう。
【田口委員】	そうです。
【平山委員】	賛成します。
【田口委員】	どういう形になるかわかりませんが、添付していただきたいということがまず1点です。 それから、できれば基本的な調査項目になっている項目を、半年に一遍でもいいですから、データとして残すために今の部分の水を採取していただいて、データとして報告していただきたいということです。提案事項はその二つ。調査箇所を増やしていただきたいということと、日常的に pH、日報で出しておる簡易測定のデータを添付していただく、6カ月には一遍ぐらい基本調査項目を、水を採取して調べていただいて添付していただく、その提案です。

【佐藤委員長代理】	事務局、確認できましたか。
【事務局（山口）】	放流口上流、橋の部分ですが、現在簡易計測で pH 等ははかっております。
【田口委員】	だけですね、今はかっているのは pH だけですから。
【事務局（山口）】	もう一つの御提案というのが、半年に 1 回上流口のところの水質分析。
【田口委員】	そうです。
【事務局（山口）】	わかりました。
【事務局（堀）】	水質分析は、水質分析項目に基づいてさせていただいているんですが、月 1 回というものと、年 4 回（四半期毎）に水質分析を行う頻度と 2 つあり、今の御指摘での水質分析頻度いかがでしょうか。
【田口委員】	年 4 回の水質分析頻度に合わせていただければいいんじゃないですか。
【事務局（堀）】	わかりました。
【山下委員】	要望を一つ。 私は、年間降水量とかいう話をしたんですけど、今村先生にこういうのがあるよって教えてもらったんですが、そういうデータは今はパソコンで保存できてはるはずですから、ずっと出るようにしてもらえませんか、これからは。私は来年いませんですけども。そういう準備をきちんとやっていただかないと、議事進行が速やかにいかない。 今この場で例えば質問があったときに、過去にこういうデータがあって議論しましたよということは、もうわかっているならそのデータを事前に少し用意しておくべきではないでしょうか。
【田口委員】	僕も役員の方には DVD で全部、協議会の議事録も含めて全部添付して渡してあるんですけど、例えば DVD に焼いておいて、それを持ってきて開けば何ページの何々ってすぐ画面を出せるわけです。ネットがつながっていなくてもできるわけですから、そういうものも準備しておいてくださいということです。
【山下委員】	もう一つ初歩的な質問ですけど、いいですか。 水質異常発生から 13 年経過したとありますよね。水質異常発生からではなくて、発生がわかってからじゃないですか。というのは、これ 13 年前に盛土が終わったわけじゃないでしょ、もっと前に終わってるでしょ。盛土、土を捨てるの。 何年に東海環状道が開通したか知らんけれども、工事は大分前に終わっていますよね、トンネルを掘ったりした。そうすると、もうちょっと前からこの盛土から出る異常水質の問題はあったけれども、知らなかっただけですね。
【田口委員】	その経過ですけど、平成 12 年がたしか埋め立てが始まったのは。例の酸性水が大量に発生したのは。
【加藤委員】	発覚したのは。
【田口委員】	大量に酸性水が調整池へ流れ込んだときは、少なくとも平成 15 年の 1 月か 2 月。前の年の 10 月のときには、実は僕が撮った写真がありまして、まだ真っ青でも何でもない普通の状態の池だったんです。
【山下委員】	土を捨てるのは何年に終わったんですか。
【事務局（山口）】	把握しておりません。15 年度ぐらいではないかと思われま。
【田口委員】	最終的なのは 17 年ぐらい。
【山下委員】	15 年にはもう東海環状道始まってるよ。
【田口委員】	17 年ぐらいにたしか最終的には埋め立てが終わった。
【事務局（山口）】	今手元にある資料では、残土処理場は平成 12 年 9 月から土砂の搬入を行い、15 年 4 月までに計画の 94% ということで、15 年 4 月末ということでございます。
【田口委員】	いや、終わってないです。
【事務局（山口）】	その後まだ小さな工事があったかもしれない。
【田口委員】	残土は、まだ少なくとも小段 1 段分は搬出されてなかったです、15 年のときには。
【事務局（堀）】	9 割方埋め立てが済んだときに酸性水によって魚が浮いたという事案が発生してこの協議会がスタートしたという状況で、そこからデータをとり始めたという状況でございます。

【加藤委員】	100%埋めないで中止になった。
【大沼委員】	鱒を放流して死んだから発覚したんですね。だから、汚染はその前からあった可能性はありますね。
【田口委員】	11月の段階は、僕は池の写真を撮っているの。
【大沼委員】	鱒を入れてすぐ浮いたんですか。
【田口委員】	2月ぐらいに池が真っ青だった。
【佐藤委員長代理】	他に。
【平山委員】	ちょっと質問していいですか。 2ページにモニタリングの位置があるんですけども、水質分析は毎月というところを書いてあるところによると、①、②、③、④、⑤、新滝ヶ洞の流入後から⑤、⑥も月に1回はやっているんですかね、水質分析を。⑦は黄瀬戸橋だからわかるんですけど、その上流側の⑤、⑥は白丸になっているから凡例によると毎月。
【事務局（山口）】	現在のはかっているのが、①コルゲート東、②コルゲート西、④と⑦。
【事務局（堀）】	全箇所調査はさせていただいております。ただ、年4回というのは、その調査項目、観測項目のところだけが毎月やらなくてもいいだろうと過去の協議会のときに決められておまして、その項目だけは4回になっております。それ以外のところは毎月、全項目調査させていただいております。
【平山委員】	さっき田口さんの言われたのがすごく大事だなと思って。 田口さん、2ページで見ると⑦が黄瀬戸橋だから、そのところは迂回水路のところが混ざり合っているんでしょ。
【田口委員】	はい。
【平山委員】	だから、混ざらない前の上の、例えば⑥とかの混ざらない水の値を知りたかったんじゃないですか。それで上流側でやれって言ったんでしょ。
【田口委員】	はい。
【平山委員】	それはそうなんだよ。 前回のときも、堀内先生がおっしゃったのは、バックグラウンドである程度のpHの揺れがあるんじゃないのかということ saying だったので、それを差分しないといけないんじゃないかというのは前回の議事録を見ても、堀内先生の御指摘なので、混ざる前のところも。この谷は、先ほどの大沼さんの分析じゃないけれども、この谷自体が酸性水が、盛土だけからじゃなくて、バックグラウンドとして流れてきている可能性もあるので、混ざったところと混ざらないところとの二つの確認をしたほうが話はもっとわかりやすいのかなと思います。
【事務局（堀）】	田口委員の御指摘は、迂回水路の放流する上流地点でpHだけ自動計測している。それに加えて水質分析をやったらどうかという御指摘でしたので、この放流する上流位置でも水質分析をさせていただきます。
【梅田委員】	僕がこの前、新滝から入ったところの水、本流、混ざる前、僕はそこをずっと前からお願いしていた。新滝から来る本流の水、10倍か30倍か何倍かしらん、どれくらい量が多いところに入る手前も測ってもらわんと、どのぐらいのが入ってどのくらい希釈されたかということもわからんということをお願いしたい。以前、中間点とかいろいろ却下され、最後で薄まればいいということで黄瀬戸橋の辺になっている。水がどっかから入ってきて薄まっていたのか経緯を見たかった。
【田口委員】	⑤のところで測ればいいんじゃないですか。
【佐藤委員長代理】	いやいや、⑤というよりも、⑥の下流のところでもとってほしいという御意見でしょ。要するに、支川を。
【梅田委員】	うん。新滝から来る水と、薄まった水が入る時点の前でも、こっちで見るならそっちも見てもらいたい。
【加藤委員】	どこに原因があるかを。
【佐藤委員長代理】	それは大変いい御提案だと思います。
【梅田委員】	橋より上も測って、新滝から大量の水が入ってるので、それを対比すると薄まる量もわかると思う。

- 【事務局（山口）】 ただいまの御提案について、適切な場所等チョイスいたしまして、また各委員の先生にも御相談して、設置する方向で検討していきたいと思います。
- 【堀内委員】 水のほうではないですけど、この前、先ほど大雨が降ったときにオーバーフローしてきて茶色い水が出てきた（泥が出てきた）ということですから、迂回水路のところの枡のところの泥を一度分析しておいていただくと良い。恐らくそんな出ないと思うので、皆さんも安心していただけるかと思いますから、一度分析していただく。
- 【加藤委員】 泥保存してあるの。
- 【事務局（堀）】 採取していませんので、現在保存している泥はありません。
- 【堀内委員】 固まっているやつを持って帰って。
- 【梅田委員】 オーバーフローについては、一番下の枡に三角堰（水量を測る角度がついた堰）があるかと思います。それが邪魔していないかと思う。
- 【事務局（堀）】 早急に「集水枡」の中の様子を見てきます。
- 【梅田委員】 それが、あまり大きいやつがついとると水量がそこで溢れるのではないか。
- 【事務局（堀）】 三角堰の問題なのか、さっきのシャワーの問題なのかというのは、現地を見て確認させていただきますので、よろしくお願いします。
- 【佐藤委員長代理】 ほかに何か御意見等ございますか。よろしいですか。
 それでは、事務局から提案がありました、調査は今後も継続し、モニタリングしながら迂回水路のほうも続けて行くこととします。調査結果については、協議会を通じて皆様方に報告していくということで、今回の協議会は閉じたいと思います。
 どうもありがとうございました。

4. 閉 会

以 上